



# 県政世論調査

---

平成 17 年度

---

概要報告書



静岡県

# 目 次

## ページ

調査の概要	1
生活についての意識	2
暮らし向き	3
日常生活の悩みや不安	3
県の仕事に対する関心	4
県政への関心度	4
県への意見や要望、不満	5
県への意見や要望を反映させる手段	6
広報媒体の浸透度	7
県の主要イベントの認知状況	9
イベント情報の入手先	12
県に望む施策	13
市町村合併後の県の役割	14
県に期待する役割	14
県が力を入れていくべき広域的・高度専門的な行政分野	15
多文化共生に関する意識	16
外国人と地域でいっしょに暮らしていくことについて	16
外国人と地域でいっしょに暮らしていくうえで大切なこと	17
外国人労働者の県内への受け入れ	18
交流人口の増大に関する意識	19
地域における観光客などの訪問者の増加	19
他の地域からの訪問者とのふれあい	20
もう一度行ってみたいと思う観光地	21
県民の環境保全意識	22
今後重要になると思われる環境問題	22
環境保全に心がけていること	23
快適な環境を継承していくために県に取り組んでほしいこと	24
農林水産業・農山漁村についての意識	25
静岡県の農林水産業に期待すること	25
基本的な役割の他に農山漁村に期待すること	26

# 調査の概要

## 1 調査の目的

県民の生活についての意識、県政の主要課題についての意識などを把握し、県政推進のための基礎的な資料とする。

## 2 調査の内容

- (1) 生活についての意識
- (2) 県の仕事に対する関心
- (3) 市町村合併後の県の役割
- (4) 多文化共生に関する意識
- (5) 交流人口の増大に関する意識
- (6) 県民の環境保全意識
- (7) 農林水産業・農山漁村についての意識

## 3 調査の設計

- 調査地域 静岡県全域
- 調査対象 県内在住の満20歳以上の男女個人
- 標本数 2,000
- 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- 調査方法 調査員による面接調査
- 調査時期 平成17年7月25日～8月17日
- 調査機関 株式会社サーベイリサーチセンター静岡事務所

## 4 回収結果

	20歳以上の推定人口	標本数	回収率 (%)
東 部	1,010,548	663	495 (74.7)
中 部	992,588	651	490 (75.3)
西 部	1,047,080	686	522 (76.1)
全 県	3,050,216	2,000	1,507 (75.4)

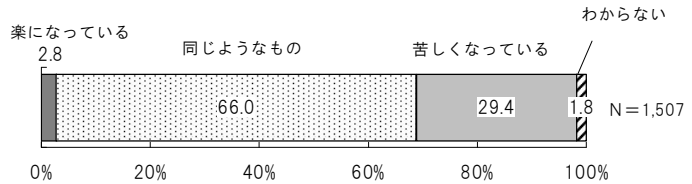
### この冊子のよみかた

- 1 結果は百分率で表示した。数表・グラフの百分率は小数第2位を、結果の概要説明文では小数第1位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
- 2 回答結果は1,507を100%として示した。なお一部の方に対する質問では、質問該当者を100%とするのを原則とした。
- 3 質問の末尾に(M. A.)とあるのは、1人の対象者に2つ以上の回答を認めたもので、その百分率の合計は100%を超える場合がある。

Q1 お宅の暮らし向きは、去年の今頃とくらべてどうでしょうか。楽になって  
いますか、苦しくなっていますか、同  
じようなものですか。

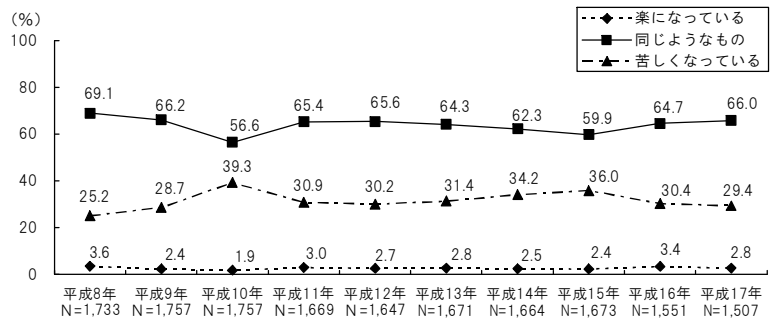
全 体

●66%が「同じようなもの」と回答している。「苦しくなっている」は29%と、3人に1人の割合となっている。



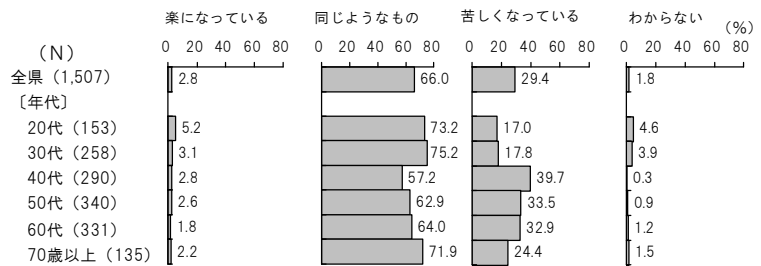
経 年 比 較

●平成12年度から15年までは、「苦しくなっている」は増加傾向であったが、前年度から減少傾向に転じ、本年度は1.0ポイント減少し、3割以下となっている。



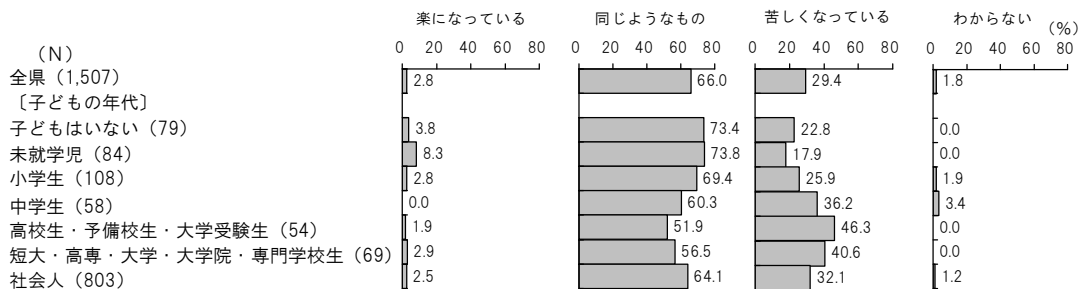
年 代 別

●「同じようなもの」は、40~60代で低く、「苦しくなっている」では高い。特に40代が40%で高くなっている。



子どもの年代別

●「苦しくなっている」は、子ども（第1子）の年代が「高校生・予備校生・大学受験生」の場合で最も多く、46%となっている。



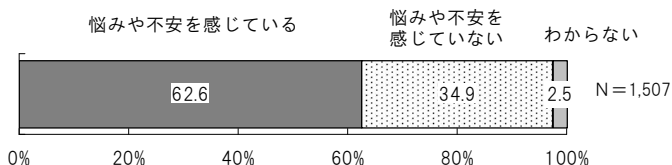
Q2 あなたは日常生活の中で、悩みや不安を感じていますか。それとも別に不安は感じていませんか。

SQ〔回答票1〕悩みや不安に思っていることは、どのようなことですか。この中からいくつでもあげてください。

(M. A.)

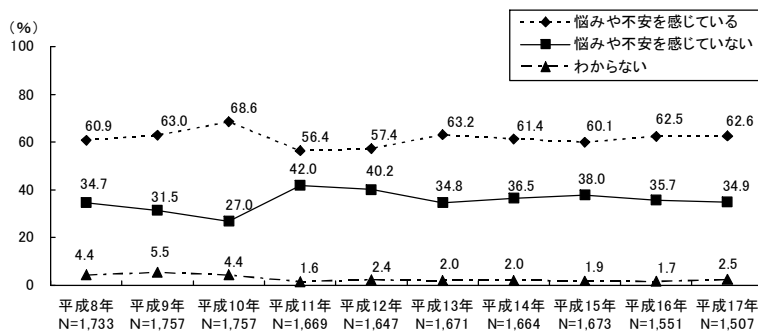
全 体

- 日常生活の中で「悩みや不安を感じている」人は、6割以上を占めている。



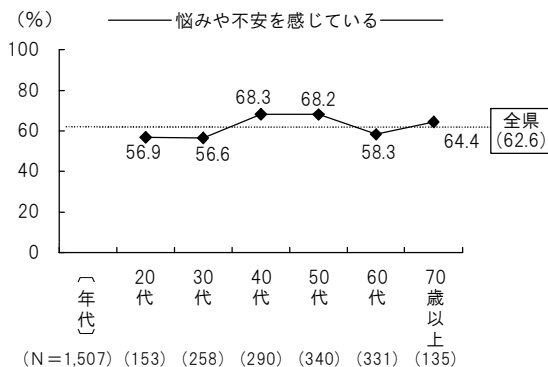
経 年 比 較

- 「悩みや不安を感じている」人の割合は、平成13年度から減少傾向であったが、前年度より増加傾向に転じ、本年度は0.1ポイント増加となっている。



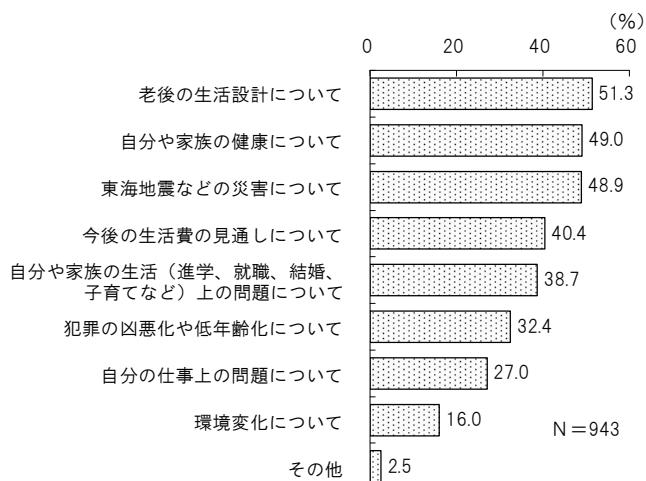
年 代 別

- 「悩みや不安を感じている」人の割合は、40代、50代がともに68%と多くなっている。



悩みや不安の内容

- 「老後の生活設計について」は51%で、半数以上となっている。以下、「自分や家族の健康について」、「東海地震などの災害について」、「今後の生活費の見通しについて」、「自分や家族の生活上の問題について」の順となっている。



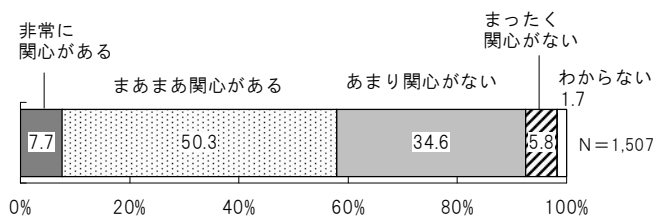
Q3〔回答票2〕あなたは県の政治や行政にどの程度関心がありますか。この中ではどうでしょうか。

SQ1〔回答票3〕県政に関心がある理由を1つだけあげるとすれば、この中ではどうでしょうか。

SQ2〔回答票4〕県政に関心がない理由を1つだけあげるとすれば、この中ではどうでしょうか。

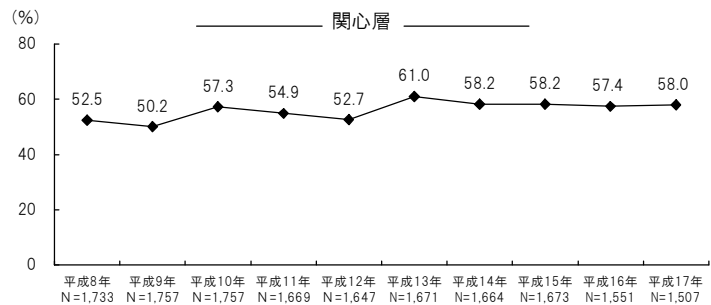
全 体

- 「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」を合わせた、58%の人が県政に関心を持っている。



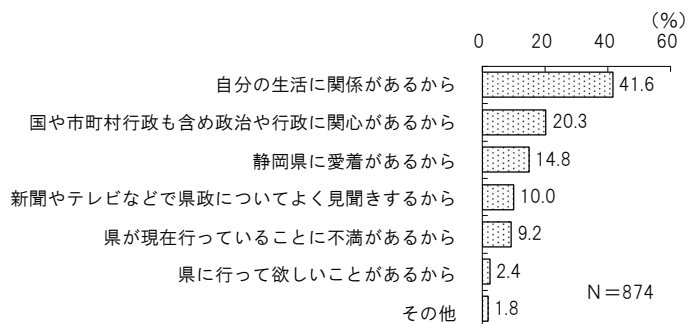
経 年 比 較

- 県政に関心を持っている人の合計は、平成13年度は、過去10年間の調査の中で最高となり、以降は減少に転じたが、本年度は前年度よりも0.6ポイント増加となっている。



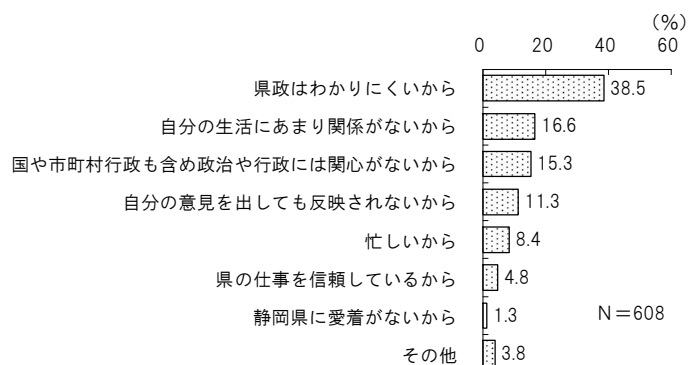
関心がある理由

- 「自分の生活に関係があるから」が42%で最も多くなっている。以下「国や市町村行政も含め政治や行政に関心があるから」、「静岡県に愛着があるから」、「新聞やテレビなどで県政についてよく見聞きするから」、「県が現在行っていることに不満があるから」、「県に行って欲しいことがあるから」、「その他」の順となっている。



関心がない理由

- 「県政はわかりにくいから」が39%で最も多くなっている。以下、「自分の生活にあまり関係がないから」、「国や市町村行政も含め政治や行政には関心がないから」、「自分の意見を出しても反映されないから」、「忙しいから」、「県の仕事を信頼しているから」、「静岡県に愛着がないから」、「その他」の順となっている。



## 県への意見や要望、不満

意見や要望、不満が「ある」人は42%  
そのうち県に伝えた人は9%

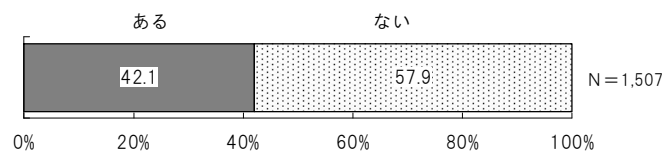
Q4 あなたはこの1年間に県の仕事について、意見や要望を持ったり、不満を感じたことがありますか。

SQ1 それでは、そのことを県に伝えましたか。

SQ2 [回答票5] 意見や要望及び不満があっても、県に伝えなかったのは、どうしてでしょうか。この中から主な理由を1つだけあげてください。

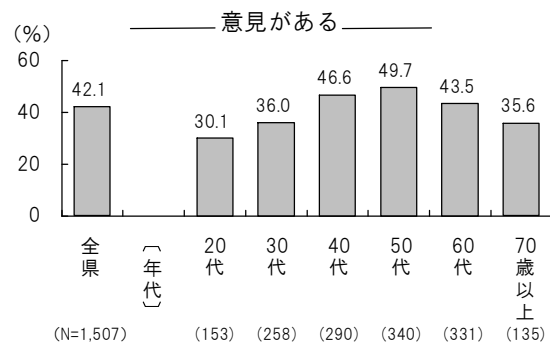
### 全 体

- 県の仕事について、意見や要望及び不満が「ある」と回答した人は、42%となっている。



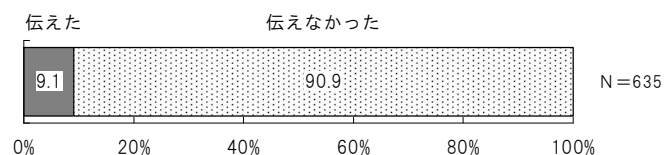
### 年 代 別

- 意見や要望、不満が「ある」人の割合は、40代から60代の中高年代で多く、特に50代では約半数となっている。



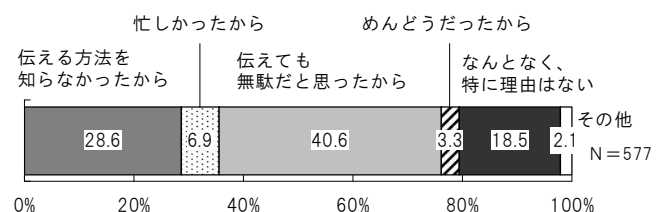
### 伝 達 の 有 無

- 意見や要望、不満が「ある」人のうち、県に伝えた人は9%にとどまっている。



### 伝達しなかった理由

- 「伝えても無駄だと思ったから」が、41%で最も多くなっている。ついで「伝える方法を知らなかったから」が29%となっている。



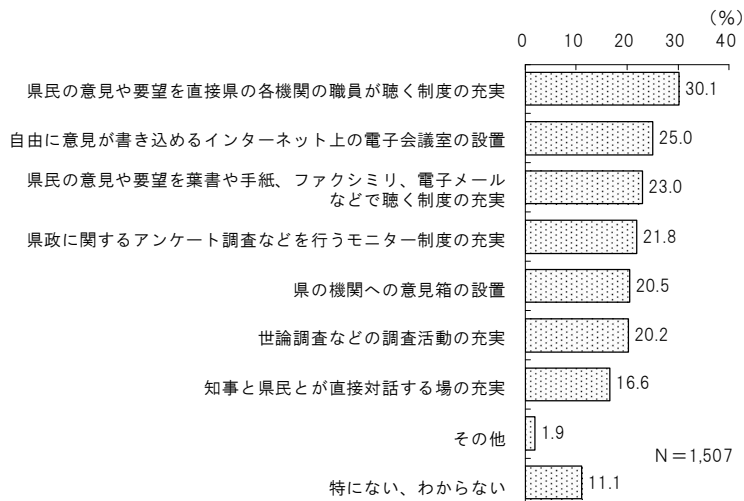
# 県への意見や要望を反映させる手段

「県民の意見や要望を直接県の各機関の職員が聴く制度の充実」が30%で最も多い

Q5〔回答票6〕あなたの意見や要望を県政に反映させるために、どのようなことを充実させてほしいですか。この中から2つまであげてください。(M. A.)

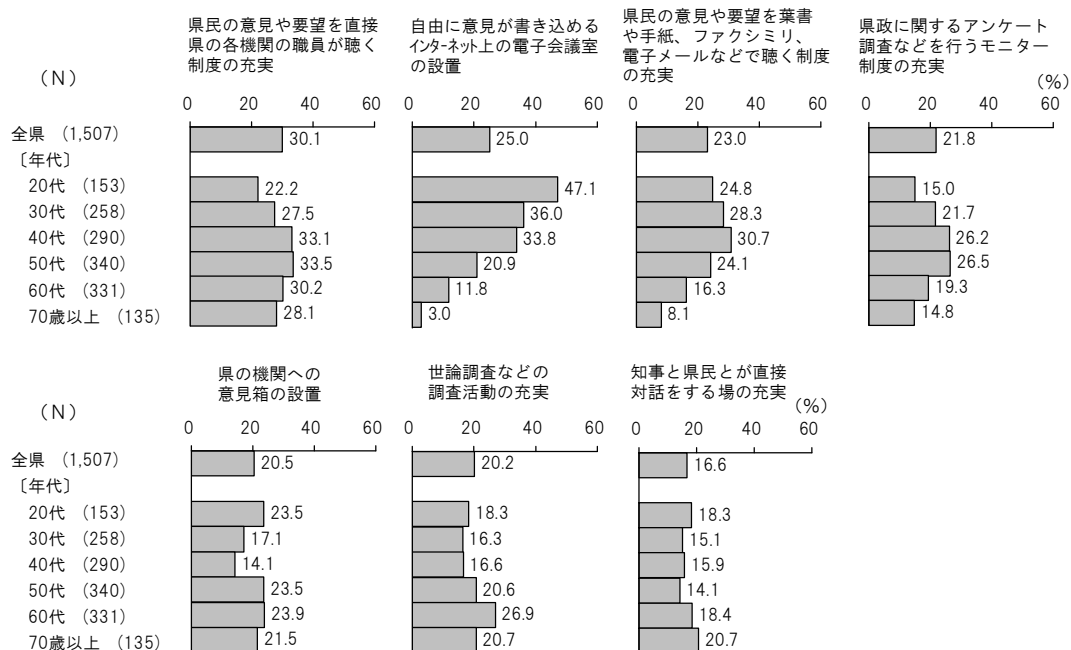
## 全 体

●「県民の意見や要望を直接県の各機関の職員が聴く制度の充実」が30%で最も多く、以下、「自由に意見が書き込めるインターネット上の電子会議室の設置」、「県民の意見や要望を葉書や手紙、ファクシミリ、電子メールなどで聴く制度の充実」、「県政に関するアンケート調査などを行うモニター制度の充実」の順となっている。



## 年 代 別

●「自由に意見が書き込めるインターネット上の電子会議室の設置」は、20代で47%と、特に多くなっているが、年代が上がるにつれて減少している。

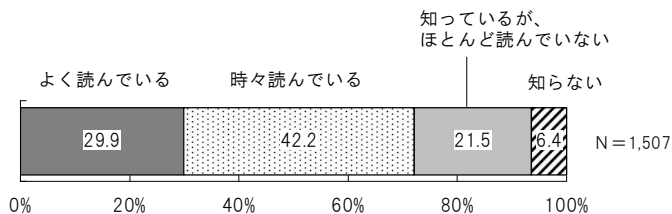




Q6 [回答票7] あなたは、次にあげる県の広報を読んだり、見たり聞いたりしたことがありますか。それぞれについてお答えください。

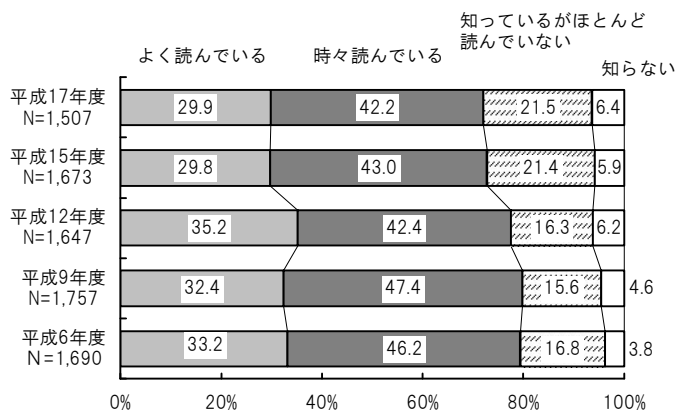
## 県民だより

- 「よく読んでいる」の30%、「時々読んでいる」の42%を合わせた72%の人が、読んでいると回答している。



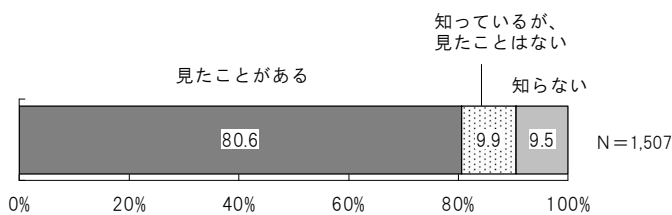
## 経年比較

- 読んでいる割合は年々減少している。本年度は、「よく読んでいる」は3割、「知っているがほとんど読んでいない」が2割以上と、前回の平成15年度と同様の傾向となっている。



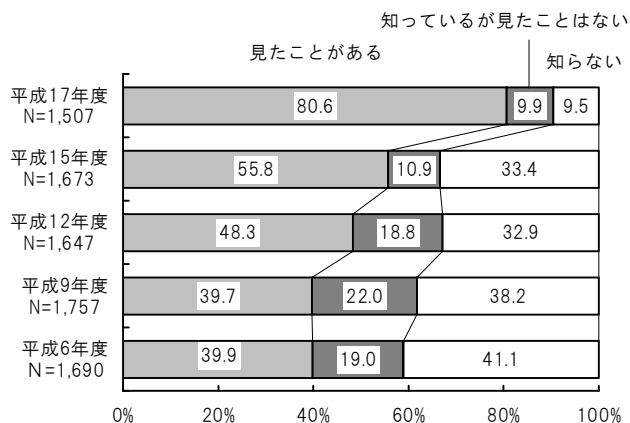
## テレビコマーシャル

- 「見たことがある」は81%で、「知らない」は1割以下となっており、目にした割合は多く、「見たことがある」人が大半を占めている。



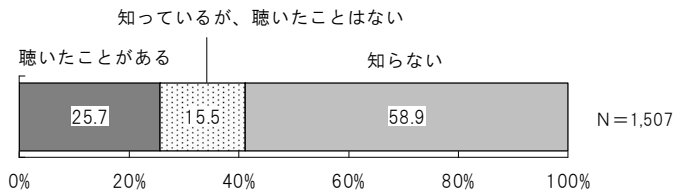
## 経年比較

- 「見たことがある」は平成12年度より年々増加し、本年度は、前年度を24.8ポイントと大きく上回っている。



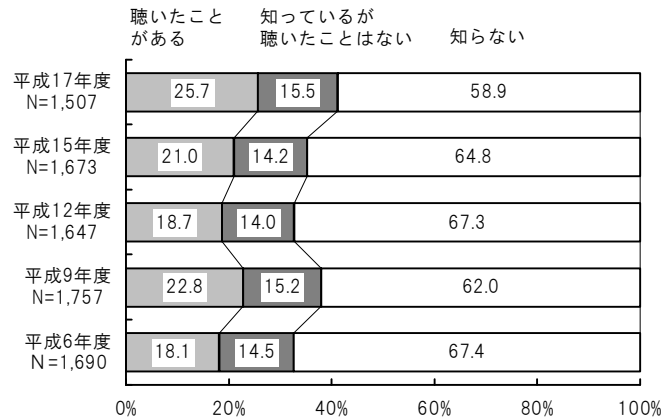
## ラジオ広報番組

- 「聞いたことがある」は26%、一方、「知らない」は59%と約6割を占めている。



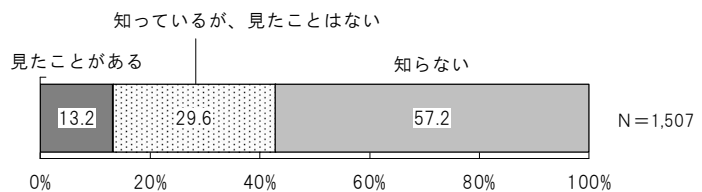
## 経年比較

- 「聞いたことがある」割合は、増減が繰り返されている。今回は、過去の調査の中で最も高くなっている。



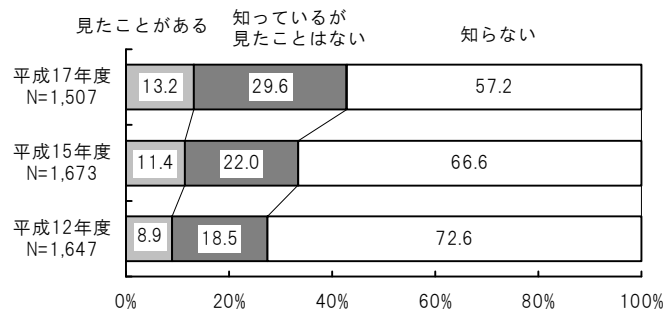
## 県のホームページ

- 「見たことがある」は13%で低く、「知らない」が57%と6割弱を占めている。



## 経年比較

- 「見たことがある」、「知っているが、見たことはない」は、ともに年々増加しており、前回から「見たことがある」は1.8ポイント、「知っているが、見たことはない」は7.6ポイント増加している。



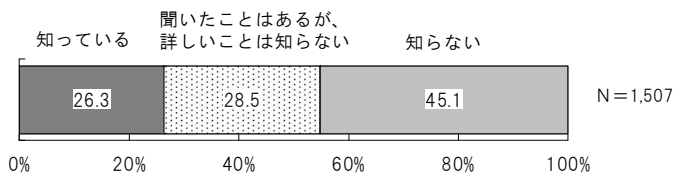
# 県の主要イベント認知状況

認知度が最も高いのは「技能五輪国際大会」で55%  
低いのは「第24回国民文化祭」で23%

Q7 [回答票8] 今後、県内で開催が予定されている大会や行事についてお聞きします。あなたは、これらの大会をご存知ですか。

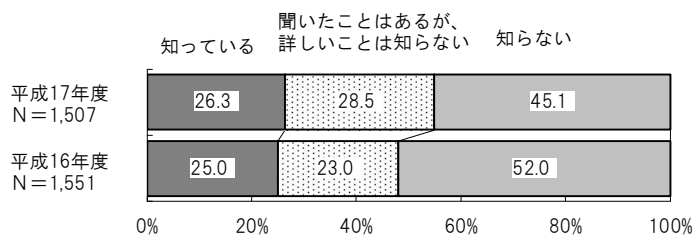
## 技能五輪国際大会

- 「知っている」は26%で、4つのイベントの中では認知度は最も高くなっている。



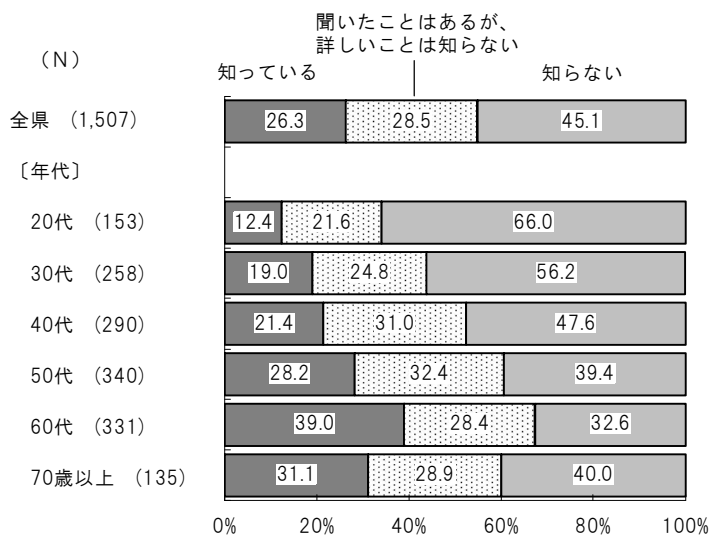
## 経年比較

- 前回と比較してみると、「知っている」は1.3ポイント増加している。一方、「知らない」は6.9ポイント減少し、「知らない」人は半数以下となっている。



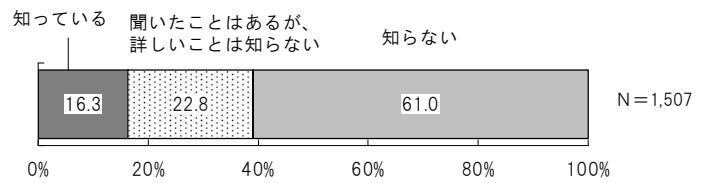
## 年代別

- 「知っている」割合は、年代が上がるにつれて高くなり、60代では39%と、最も高くなっている。



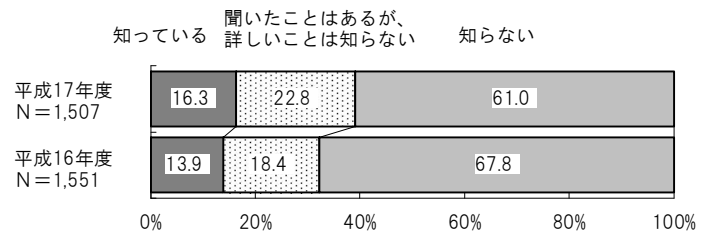
## 国際アビリンピック

- 「知っている」割合は16%で低く、「知らない」が61%と6割以上を占めている。



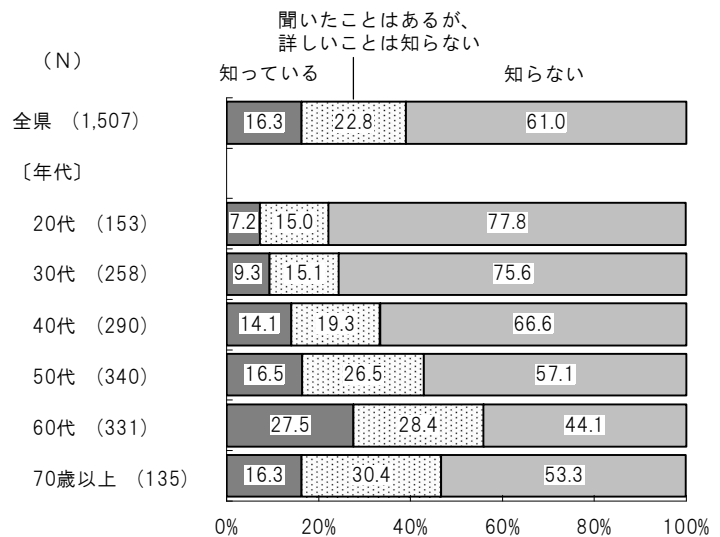
## 経年比較

- 前回と比較してみると、「知っている」は2.4ポイント増加している。一方、「知らない」は6.8ポイント減少している。



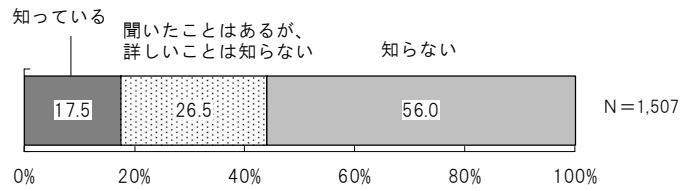
## 年代別

- 「知っている」割合は、60代で高くなっており28%となっている。



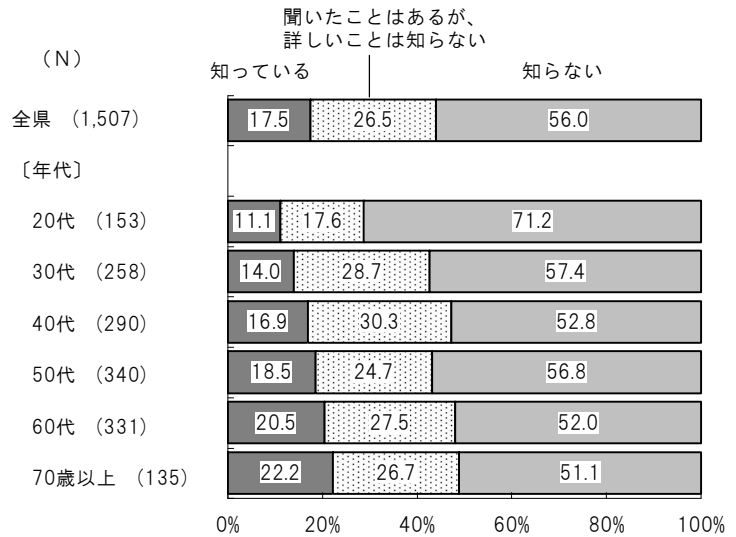
## ねんりんピック

- 「知っている」割合は18%と低く、「知らない」が56%と過半数を占めている。



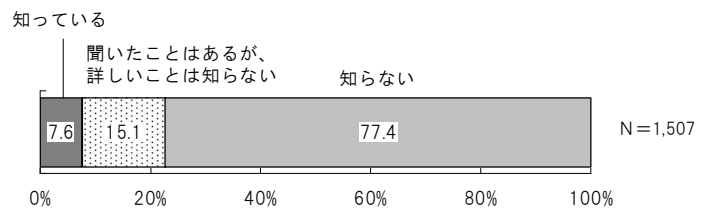
## 年代別

- 「知っている」割合は、年代が上がるとつれて高くなり、60代、70歳以上で2割以上となっている。



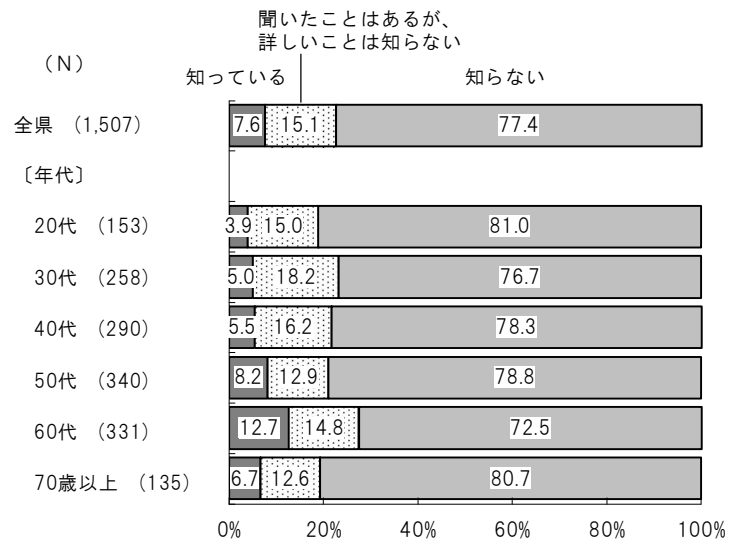
## 第24回国民文化祭

- 「知っている」割合は8%で、「知らない」が77%と、大半を占めている。



## 年代別

- 「知っている」割合は、60代が13%で最も高く、その他は1割未満となっている。



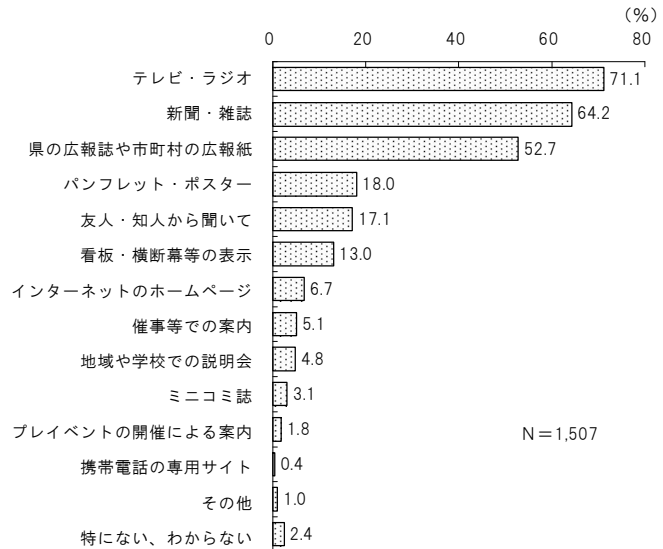
# イベント情報の入手先

「テレビ・ラジオ」で71%、「新聞・雑誌」で64%

Q8 [回答票9] あなたは、日ごろ、大会や行事などのイベント情報を何から知ることが多いですか。この中からいくつでもあげてください。(M. A.)

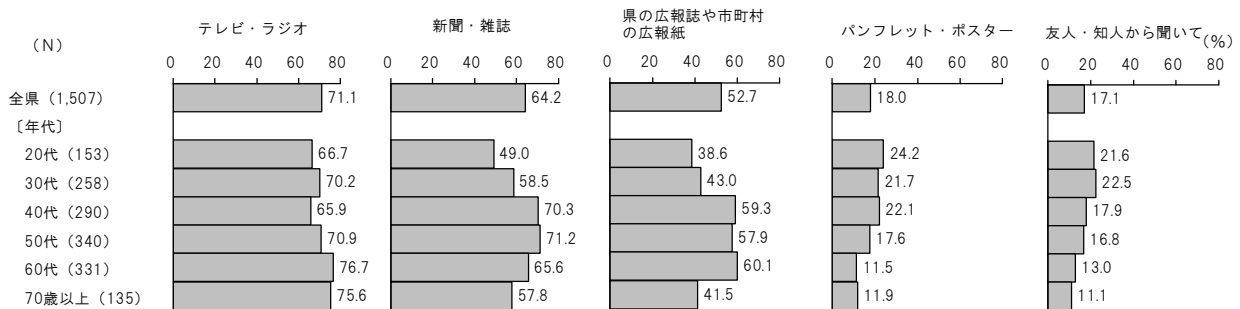
## 全 体

●「テレビ・ラジオ」が71%で大半を占めている。ついで、「新聞・雑誌」が64%、「県の広報誌や市町村の広報紙」が53%となっており、以上が過半数となっている。



## 年 代 別

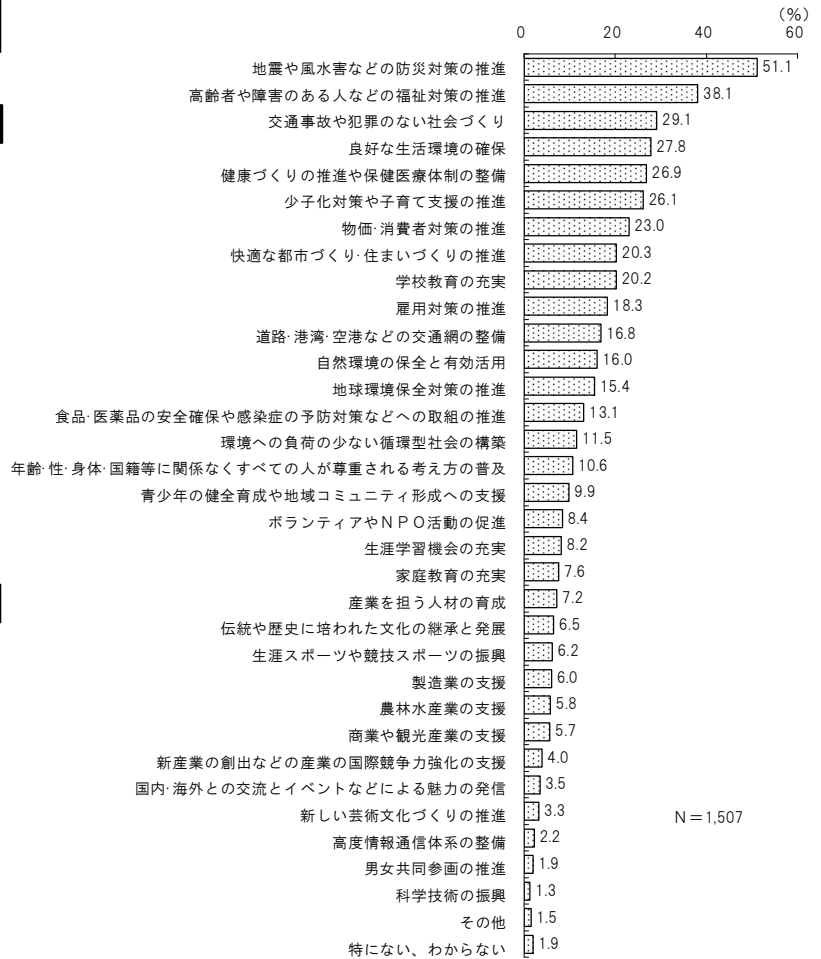
●「テレビ・ラジオ」は、いずれの年代でも多くなっているが、40代、50代では「新聞・雑誌」が第1位となっている。また、「県の広報誌や市町村の広報紙」も40代から60代で、約6割と多くなっている。



Q9 [回答票10] あなたが、県に特に力を入れてほしいと考えることを、この中から5つまであげてください。(M. A.)

全 体

●「地震や風水害などの防災対策の推進」が51%で最も多く、過半数となっている。以下、「高齢者や障害のある人などの福祉対策の推進」、「交通事故や犯罪のない社会づくり」、「良好な生活環境の確保」、「健康づくりの推進や保健医療体制の整備」の順となっている。

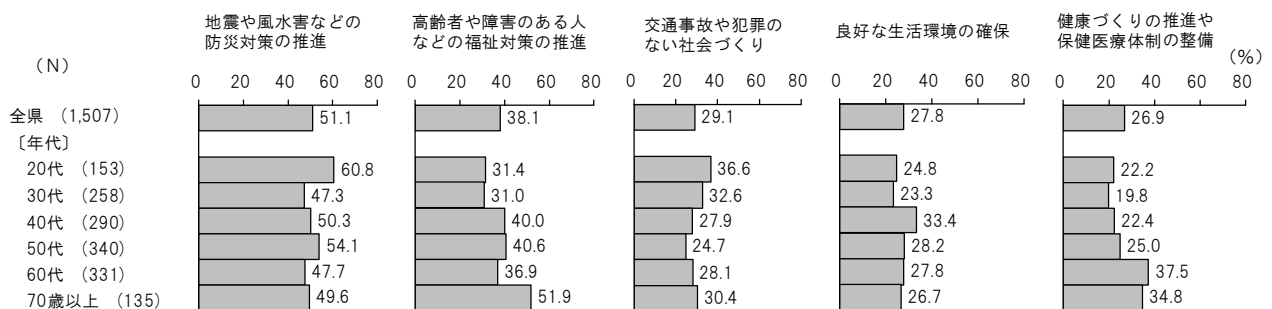
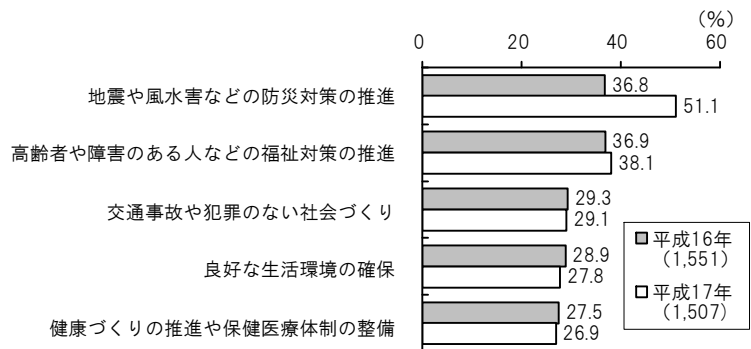


経 年 比 較

●前年は第2位であった「地震や風水害などの防災対策の推進」は、14.3ポイント増加し、第1位となっている。

年 代 別

●第1位の「地震や風水害などの防災対策の推進」は、20代で6割以上と多くなっている。第2位の「高齢者や障害のある人などの福祉対策の推進」と、第5位の「健康づくりの推進や保健医療体制の整備」については、いずれも年代が上がるにつれて、割合は高くなっている。



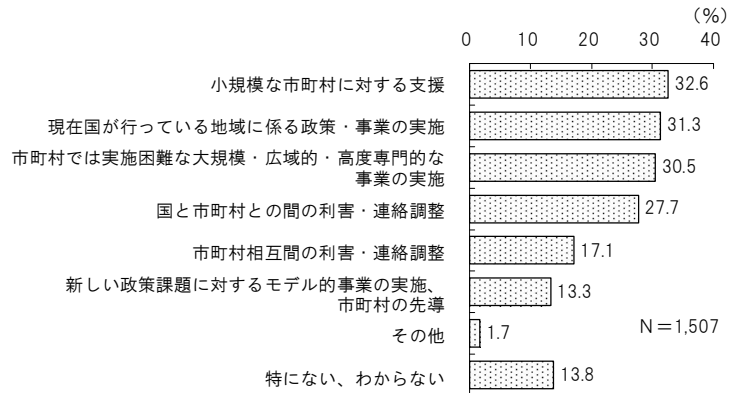
# 市町村合併後の県の役割

「小規模な市町村に対する支援」が33%で最も多い

Q10 [回答票11] これからの、県にどのような役割を期待しますか。特に期待する役割を、この中から2つまであげてください。(M. A.)

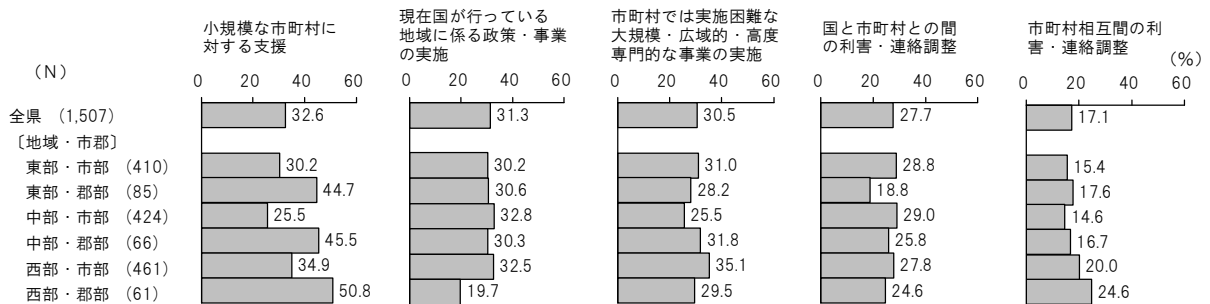
## 全 体

●「小規模な市町村に対する支援」が33%で最も多く、以下、「現在国が行っている地域に係る政策・事業の実施」、「市町村では実施困難な大規模・広域的・高度専門的な事業の実施」、「国と市町村との間の利害・連絡調整」、「市町村相互間の利害・連絡調整」の順となっている。



## 地域・市郡別

●「小規模な市町村に対する支援」は、郡部が市部を大きく上回っている。特に、西部・郡部は51%で過半数となっている。





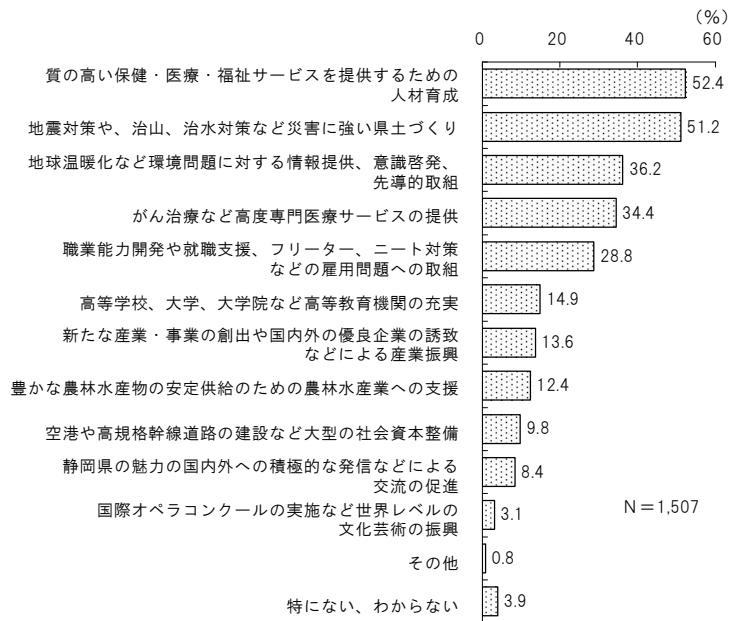
# 県が力を入れていくべき 広域的・高度専門的な行政分野

「質の高い保健・医療・福祉サービスを提供するための人材育成」が52%で最も多い

Q11〔回答票12〕今後、県が特に力を入れていくべき、広域的・高度専門的な行政分野を、この中から3つまであげてください。(M. A.)

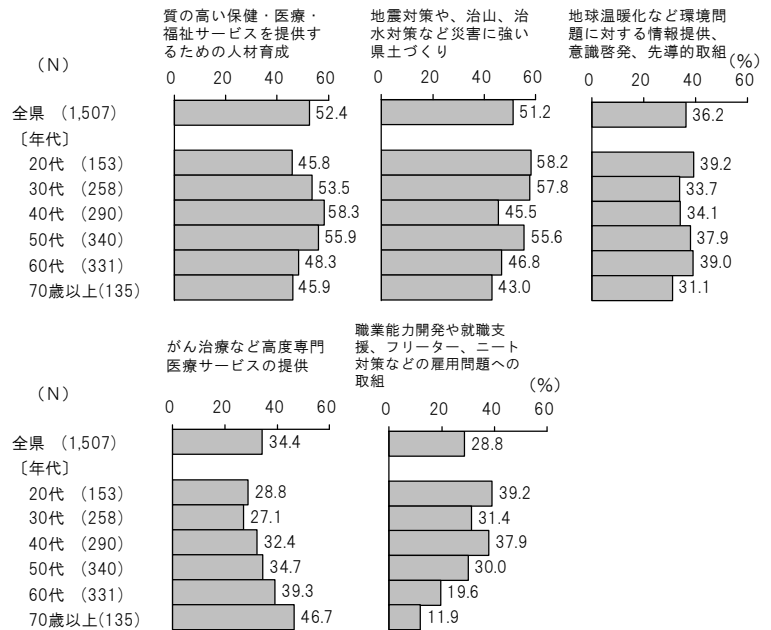
## 全 体

●「質の高い保健・医療・福祉サービスを提供するための人材育成」が52%、「地震対策や、治山、治水対策など災害に強い県土づくり」が51%となっており、以上が過半数となっている。以下、「地球温暖化など環境問題に対する情報提供、産業啓発、先導的取組」、「がん治療など高度専門医療サービスの提供」、「職業能力開発や就職支援、フリーター、ニート対策などの雇用問題への取組」の順となっている。



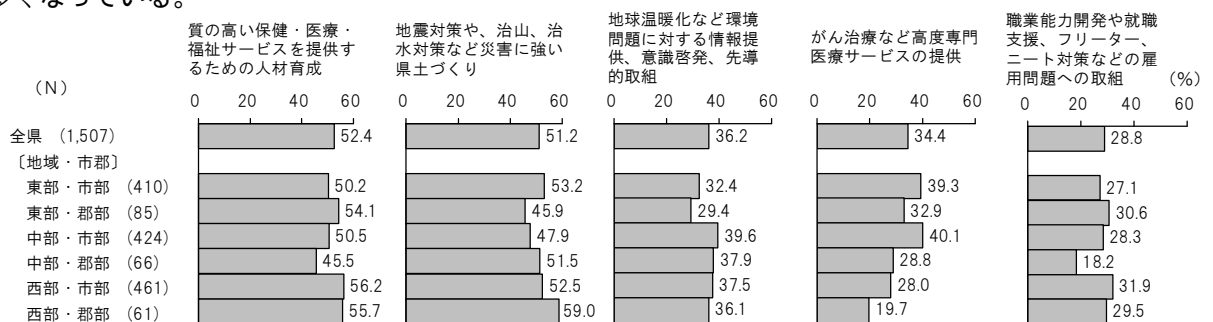
## 年 代 別

●「がん治療など高度専門医療サービスの提供」は、年代が上がるにつれて割合は高くなっており、70歳以上では47%で最も多くなっている。一方、「職業能力開発や就職支援、フリーター、ニート対策などの雇用問題への取組」は若年層で多くなっている。



## 地 域 ・ 市 郡 別

●「がん治療など高度専門医療サービスの提供」は市部が郡部を上回っている。特に、東部と中部では約4割と多くなっている。



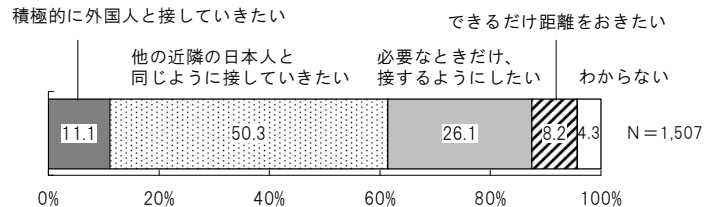
# 外国人と地域でいっしょに暮らしていくことについて

「他の近隣の日本人と同じように接していきたい」と考えている人が半数

Q12 [回答票 13] 平成 16 年 12 月現在、静岡県内には 9 万 1 千人の外国人が暮らしています。あなたは、言葉や生活習慣が異なる外国人と地域で暮らしていくことに関して、どのように考えますか。

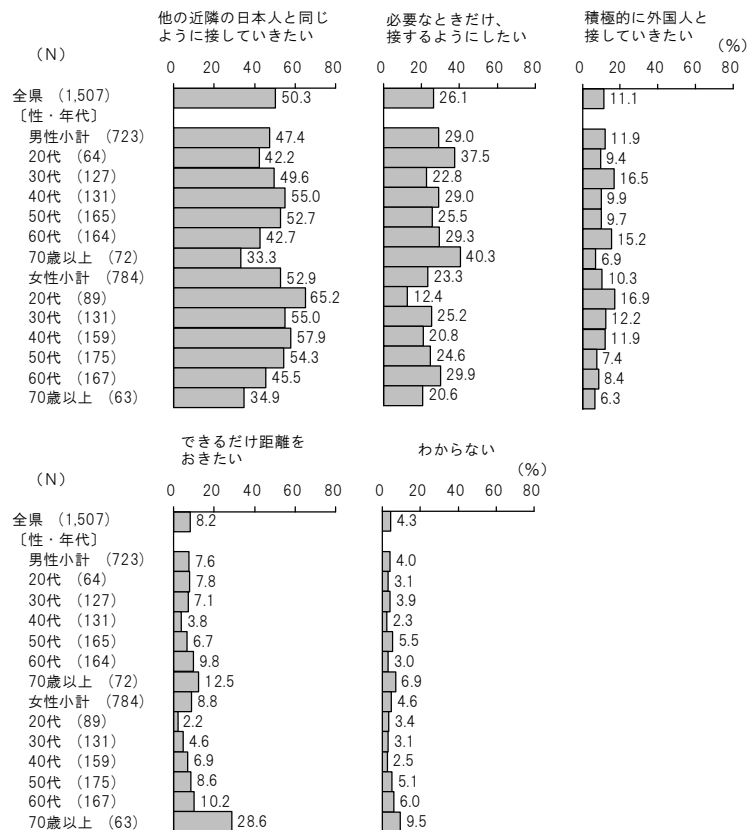
## 全 体

- 「他の近隣の日本人と同じように接していきたい」と考えている人が 50% で最も多く、ついで「必要なときだけ、接するようになりたい」が 26%、「積極的に外国人と接していきたい」が 11%、「できるだけ距離をおきたい」が 8% となっている。



## 性・年代別

- いずれの性・年代においても「他の近隣の日本人と同じように接していきたい」が多くなっているが、男性 70 歳以上では「必要なときだけ、接するようになりたい」が 40% で最も多くなっている。また、女性 70 歳以上では「できるだけ距離をおきたい」が 29% で、やや多くなっている。



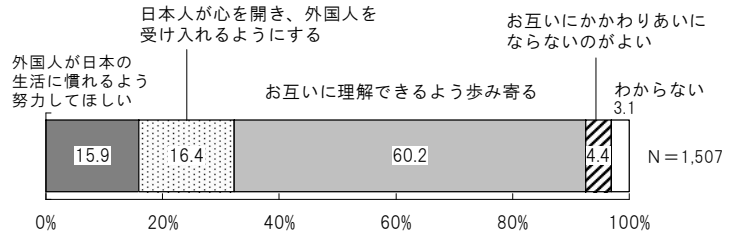
# 外国人と地域でいっしょに暮らしていくうえで大切なこと

「お互いに理解できるよう歩み寄る」ことが大切だと思っている人が6割

Q13 [回答票 14] 地域で暮らす外国人とよりよく暮らしていくためには、どのようなことが大切だと思いますか。

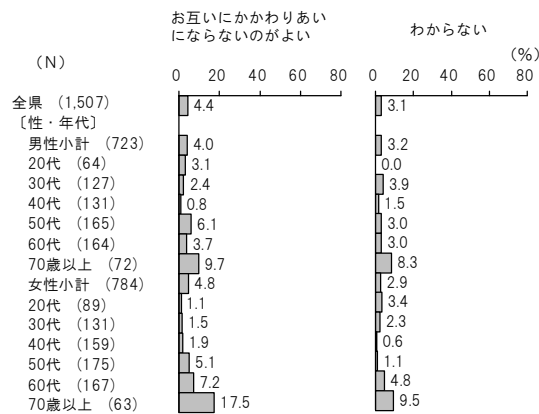
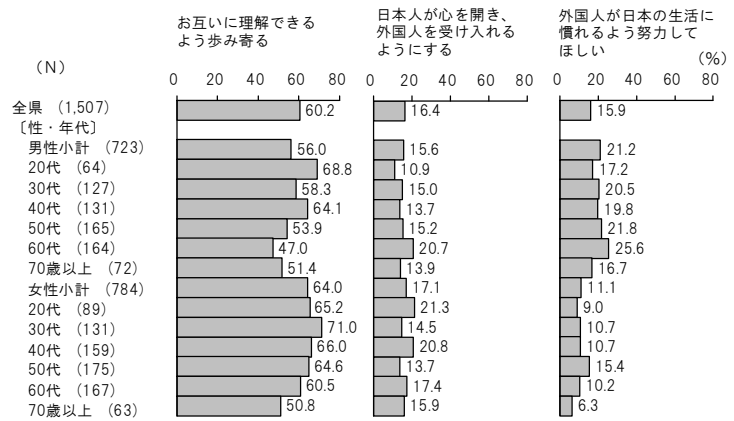
## 全 体

●「お互いに理解できるよう歩み寄る」ことが大切だと思っている人が60%で最も多く、ついで「日本人が心を開き、外国人を受け入れるようにする」、「外国人が日本人の生活に慣れるよう努力してほしい」がともに16%、「お互いにかかわりあえないのがよい」が4%となっている。



## 性・年代別

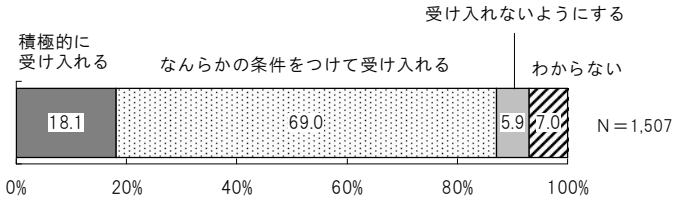
●いずれの性・年代においても「お互いに理解できるよう歩み寄る」が多くなっている。また、「外国人が日本の生活になれるよう努力してほしい」は男性60代で、「お互いにかかわりあえないのがよい」は女性70歳以上で、やや多くなっている。



Q14 [回答票 15] 今後、外国人労働者を県内に受け入れることについて、どのように考えますか。

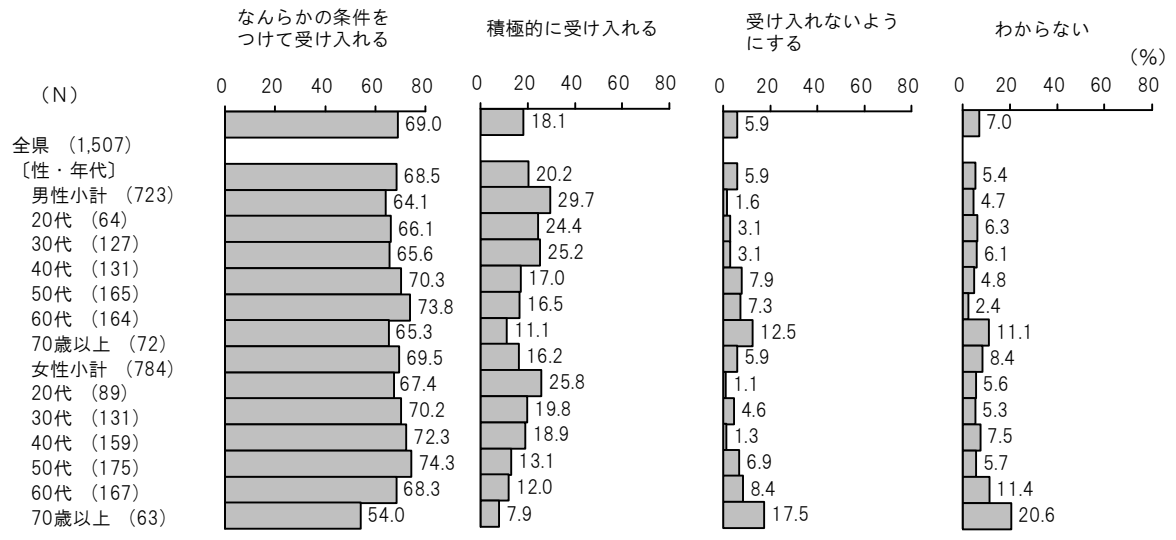
## 全 体

- 「なんらかの条件をつけて受け入れる」ことがよいと考えている人が69%で最も多く、ついで「積極的に受け入れる」が18%、「受け入れないようにする」が6%となっている。



## 性・年代別

- いずれの性・年代においても「なんらかの条件をつけて受け入れる」が過半数を占め、最も多くなっている。また、「積極的に受け入れる」は、男性の若年層で割合が高くなっている。一方、「受け入れないようにする」は、男女ともに70歳以上で1割を超えている。



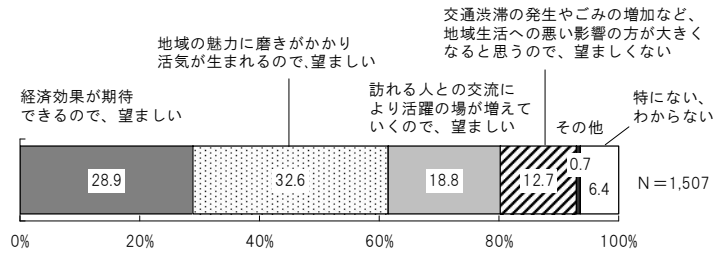
# 地域における 観光客などの訪問者の増加

「地域の魅力に磨きがかかり活気が生まれるので、  
望ましい」と思う人が33%

Q15〔回答票16〕人口減少社会に移行する中で、観光客などの訪問者を増やすことが地域の活性化に必要だといわれています。あなたの住んでいる地域に観光客などの訪問者が増えることについてどう思いますか。

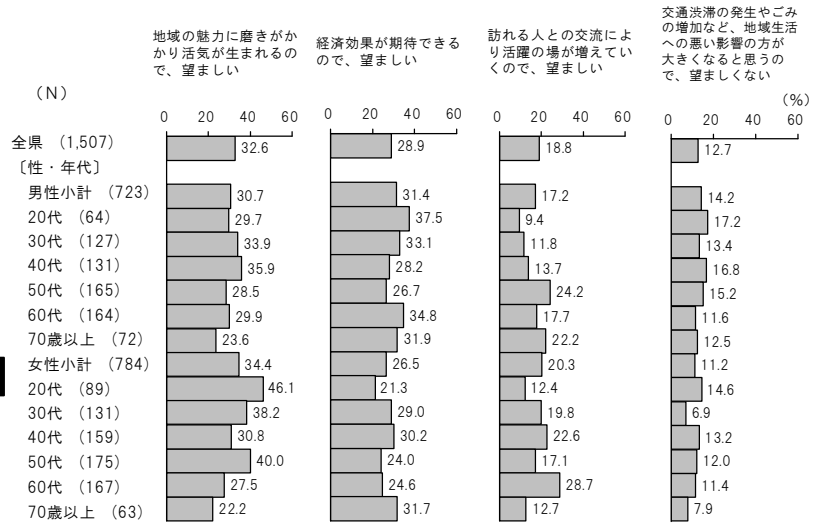
## 全 体

●「地域の魅力に磨きがかかり活気が生まれるので、望ましい」と思う人が33%で最も多く、ついで「経済効果が期待できるので、望ましい」が29%、「訪れる人との交流により活躍の場が増えていくので、望ましい」が19%、「交通渋滞の発生やごみの増加など、地域生活への悪い影響の方が大きくなると思うので、望ましくない」は13%となっている。



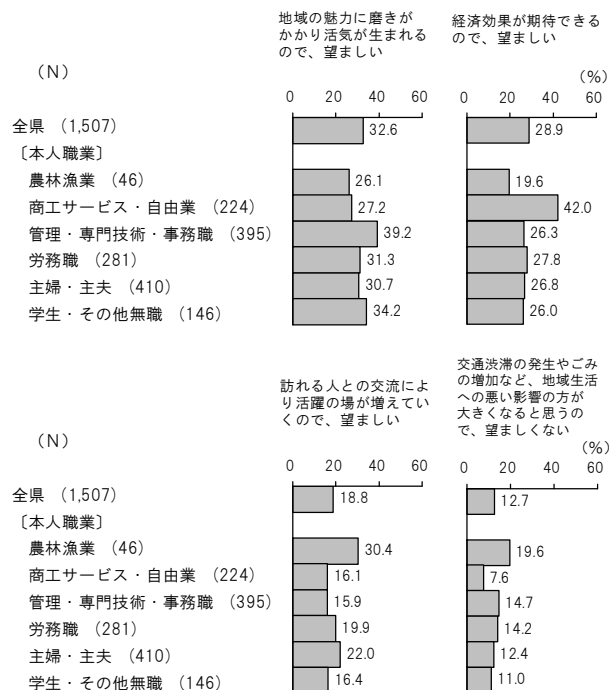
## 性・年代別

●いずれの性・年代においても、「地域の魅力に磨きがかかり活気が生まれるので、望ましい」または「経済効果が期待できるので、望ましい」が高い割合を占めているが、女性60代では「訪れる人との交流により活躍の場が増えていくので、望ましい」が29%で最も多くなっている。



## 本人職業別

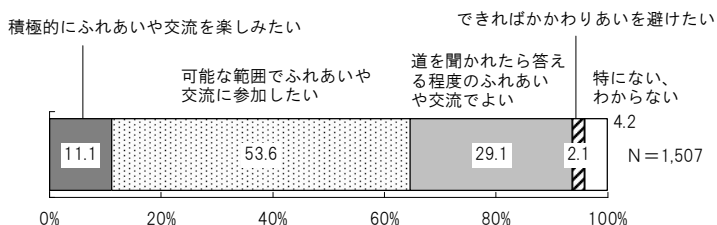
●「経済効果が期待できるので、望ましい」は商工サービス・自由業で42%、「訪れる人との交流により活躍の場が増えていくので望ましい」は農林漁業で30%と多くなっている。



Q16〔回答票17〕観光客など他の地域からの訪問者は、知らない土地の人たちとのふれあいや交流を求める傾向が強くなっています。あなたは、他の地域からの訪問者とふれあうことについてどう思いますか。

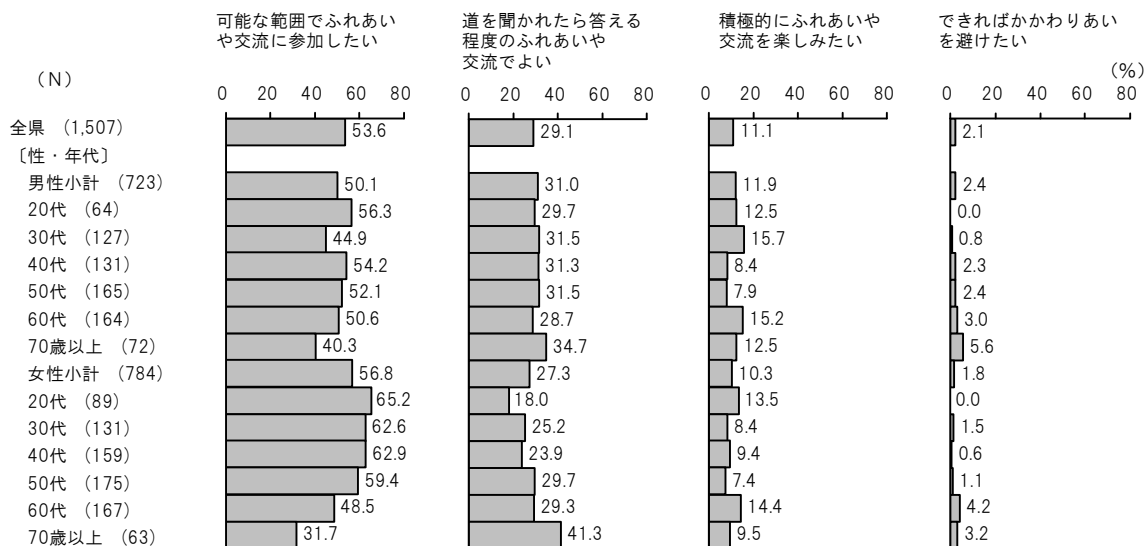
全 体

- 「可能な範囲でふれあいや交流に参加したい」と思う人が54%で最も多く、ついで「道を聞かれたら答える程度のふれあいや交流でよい」が29%、「積極的にふれあいや交流を楽しみたい」が11%、「できればかかわりあいを避けたい」が2%となっている。



性・年代別

- いずれの性・年代においても、「可能な範囲でふれあいや交流に参加したい」が高い割合を占めているが、女性70歳以上では「道を聞かれたら答える程度のふれあいや交流でよい」が41%で最も多くなっている。



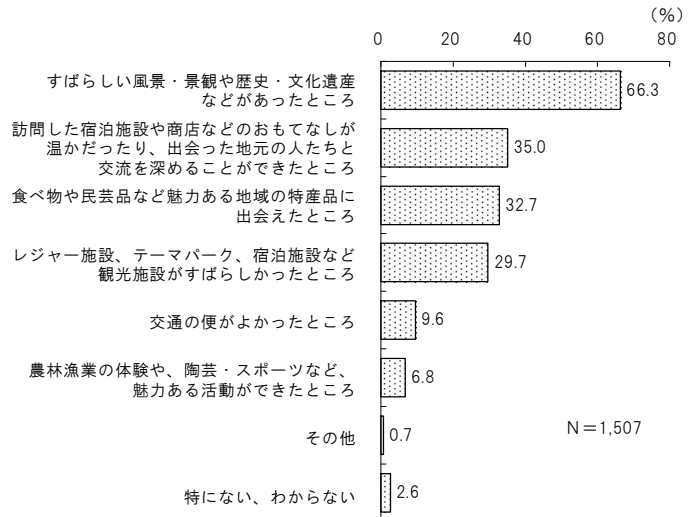
# もう一度 行ってみたいと思う観光地

「すばらしい風景・景観や歴史・文化遺産などが  
あったところ」が66%

Q17 [回答票 18] これまでに訪れた観光地などの中で、もう一度行ってみたいと思うところは、どのようなところでしたか。この中から2つまであげてください。  
(M. A.)

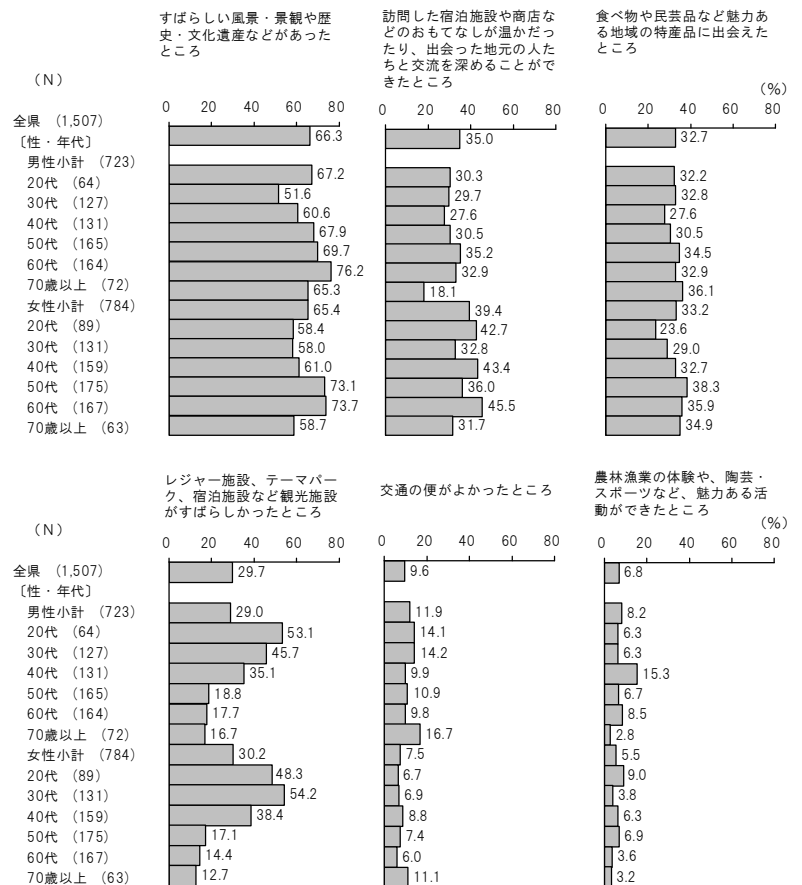
## 全 体

●「すばらしい風景・景観や歴史・文化遺産などがあったところ」が66%で最も多く、以下「訪問した宿泊施設や商店のおもてなしが温かかったり、出会った地元の人たちと交流を深めることができたところ」、「食べ物や民芸品など魅力ある地域の特産品に会えたところ」、「レジャー施設、テーマパーク、宿泊施設など観光施設がすばらしかったところ」、「交通の便がよかったところ」、「農林漁業の体験や、陶芸・スポーツなど、魅力ある活動ができたところ」、「その他」の順となっている。



## 性・年代別

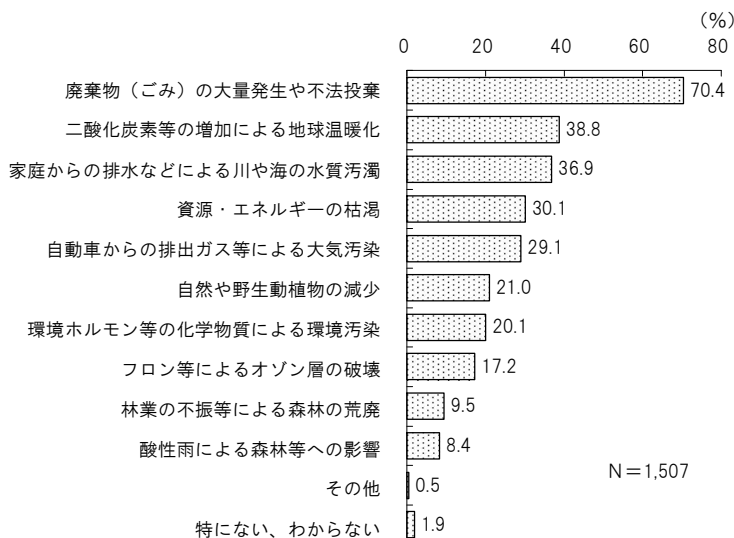
●いずれの年代においても、「すばらしい風景・景観や歴史・文化遺産などがあったところ」が多くなっている。また、「レジャー施設、テーマパーク、宿泊施設など観光施設がすばらしかったところ」については、男女ともに若年層で多く、特に男性20代では第1位となっているが、年齢が上がるにつれて割合は低くなっている。



Q18 [回答票19] あなたは、今後どのような環境問題が重要になると思いますか。この中から3つまであげてください。  
(M. A.)

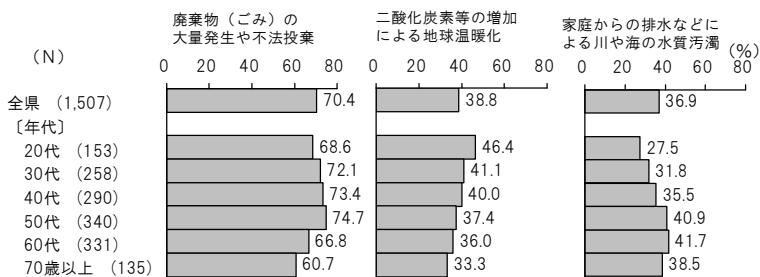
### 全 体

●「廃棄物（ごみ）の大量発生や不法投棄」が70%で最も多く大半の人が重要と感じている。以下「二酸化炭素等の増加による地球温暖化」、「家庭からの排水などによる川や海の水質汚濁」、「資源・エネルギーの枯渇」、「自動車からの排気ガス等による大気汚染」の順となっている。



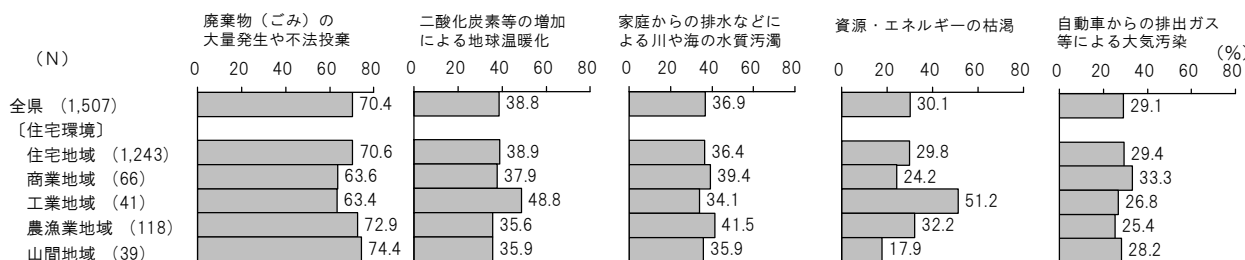
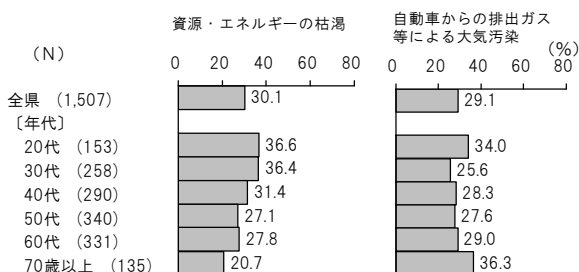
### 年 代 別

●「二酸化炭素等の増加による地球温暖化」、「資源・エネルギーの枯渇」については、年代が上がるにつれて割合は低くなっている。一方、「家庭からの排水などによる川や海の水質汚濁」は、年代が上がるにつれて割合は高くなり、60代でピークとなっている。



### 住 宅 環 境 別

●工業地域では「二酸化炭素等の増加による地球温暖化」が49%、「資源・エネルギーの枯渇」が51%と割合が高くなっている。

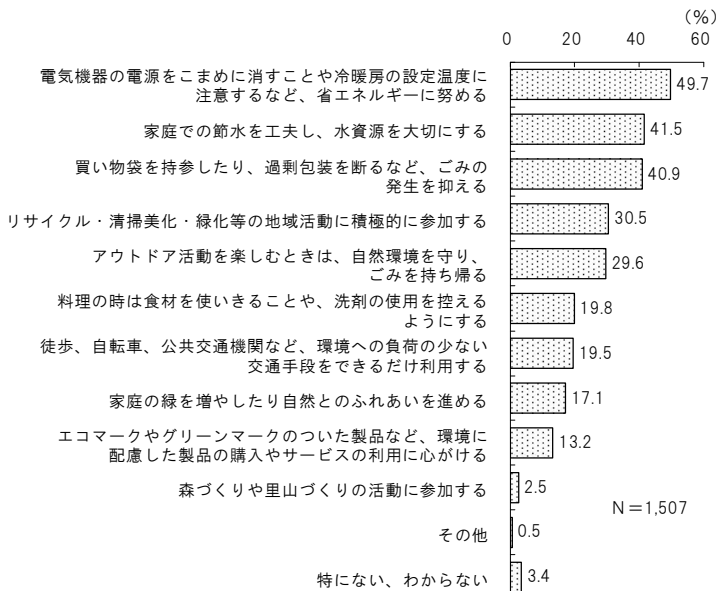




Q19 [回答票20] あなたが環境を守るために、普段心がけていることは何ですか。この中から3つまであげてください。(M. A.)

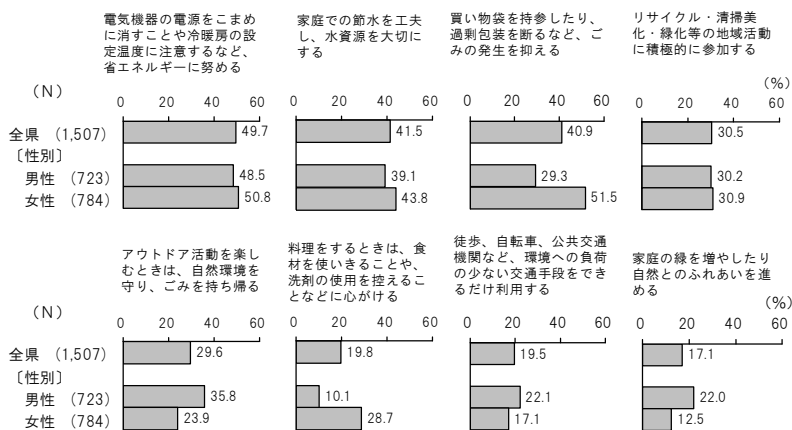
**全 体**

●「電気機器の電源をこまめに消すことや冷暖房の温度設定に注意するなど、省エネルギーに努める」が50%で最も多く、約半数の人が心がけている。以下、「家庭での節水を工夫し、水資源を大切にする」、「買物袋を持参したり、過剰包装を断るなど、ごみの発生を抑える」、「リサイクル・清掃美化・緑化等の地域活動に積極的に参加する」、「アウトドア活動を楽しむときは、自然環境を守り、ごみを持ち帰る」の順となっている。



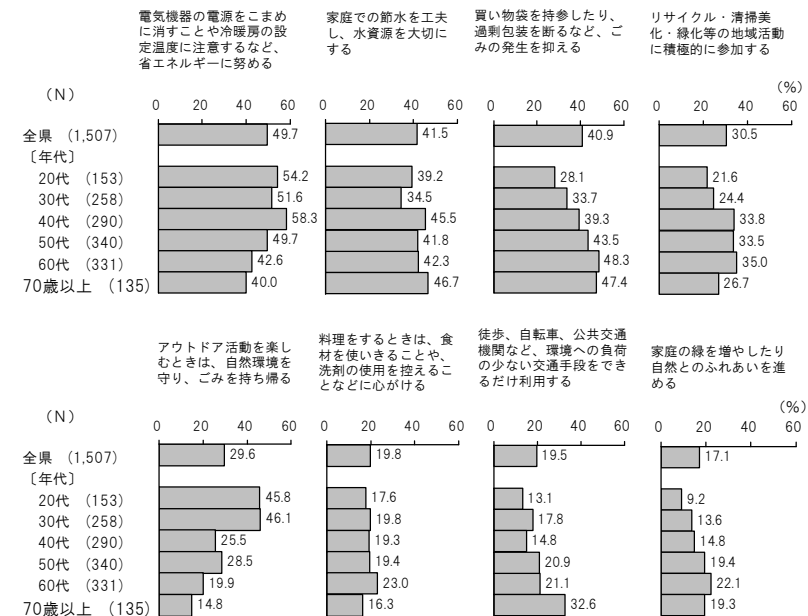
**性 別**

●「アウトドア活動を楽しむときは、自然環境を守り、ごみを持ち帰る」は男性が女性を、「買物袋を持参したり、過剰包装を断るなど、ごみの発生を抑える」と「料理をするときは、食材を使いきることや、洗剤の使用を控えることなどに心がける」では女性が男性を、それぞれ10ポイント以上上回っている。



**年 代 別**

●「アウトドア活動を楽しむときは、自然環境を守り、ごみを持ち帰る」は、20代、30代の若年層で割合が高く、年代が上がるにつれて低くなっている。一方、「買物袋を持参したり、過剰包装を断るなど、ごみの発生を抑える」は、年代が上がるにつれて割合が高くなり、60代でピークになっている。



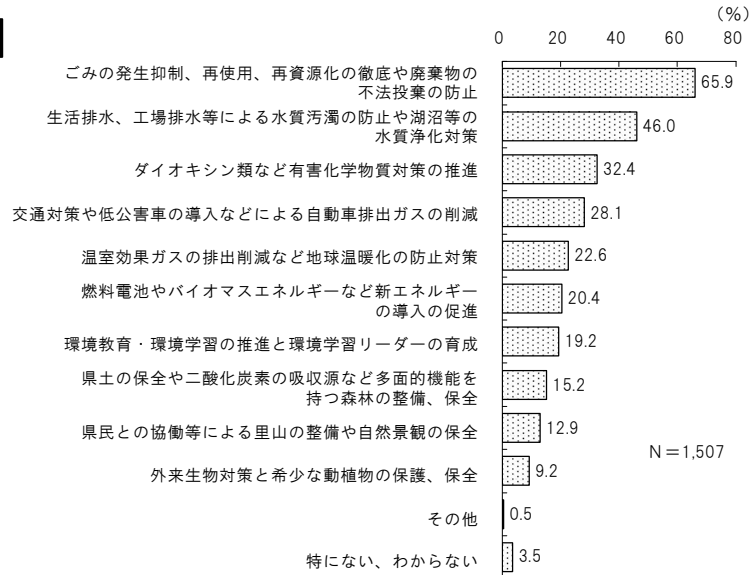
# 快適な環境を継承していく ために県に取り組んでほしいこと

「ごみの発生抑制、再使用、再資源化の徹底や、  
廃棄物の不法投棄の防止」が66%で最も多い

Q20 [回答票 21] 次世代に快適な環境を継承していくため、県により積極的に取り組んでほしいと思うことは何ですか。この中から3つまであげてください。  
(M. A.)

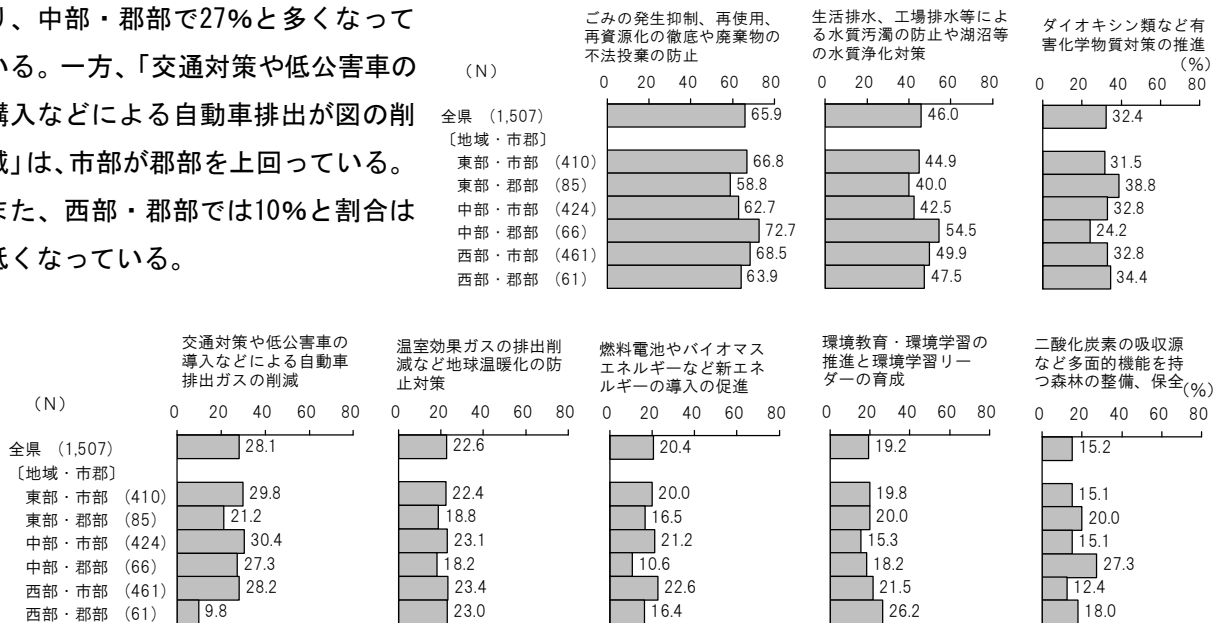
## 全 体

●「ごみの発生抑制、再使用、再資源化の徹底や、廃棄物の不法投棄の防止」が66%で最も多く、以下「生活排水、工場排水等による水質汚濁の防止や湖沼等の水質浄化対策」、「ダイオキシン類など有害化学物質対策の推進」、「交通対策や低公害車の購入などによる自動車排出が図の削減」、「温室効果ガスの排出削減など地球温暖化の防止対策」、「燃料電池やバイオマスエネルギーなど新エネルギーの導入の促進」、「環境教育・環境学習の推進と環境学習リーダーの育成」、「県土の保全や二酸化炭素の吸収源など多面的機能を持つ森林の整備、保全」、「県民との協働等による里山の整備や自然景観の保全」、「外来生物対策と希少な動植物の保護、保全」その他  
特にない、わからない



## 地域・市郡別

●「県土の保全や二酸化炭素の吸収源など多面的機能を持つ森林の整備、保全」は、郡部が市部を上回っており、中部・郡部で27%と多くなっている。一方、「交通対策や低公害車の購入などによる自動車排出が図の削減」は、市部が郡部を上回っている。また、西部・郡部では10%と割合は低くなっている。



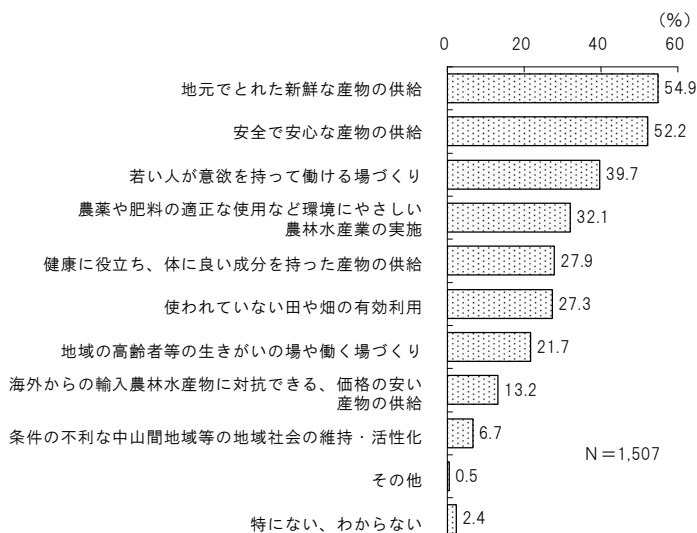
# 静岡県の農林水産業に期待すること

## 「地元でとれた新鮮な産物の供給」と「安全で安心な産物の供給」で過半数

Q21〔回答票 22〕あなたが、静岡県の農林水産業に期待することは何ですか。特に期待することをこの中から3つまであげてください。(M. A.)

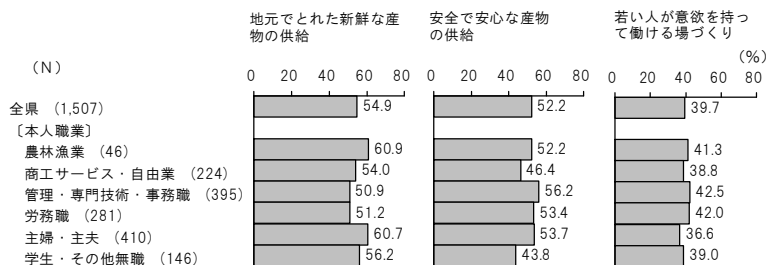
### 全 体

●「地元でとれた新鮮な産物の供給」が55%、「安全で安心な産物の供給」が52%で、上位の2項目が過半数となっている。以下、「若い人が意欲を持って働ける場づくり」、「農薬や肥料の適正な使用など環境にやさしい農林水産業の実施」、「健康に役立ち、体に良い成分を持った産物の供給」の順となっている。



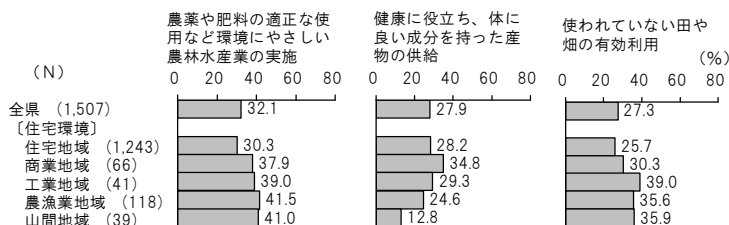
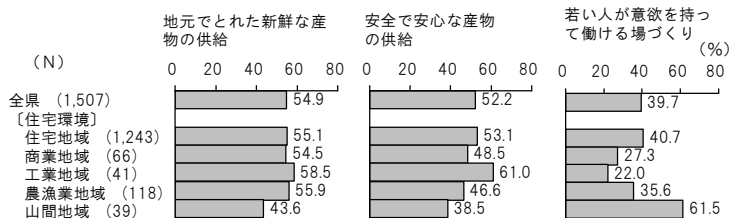
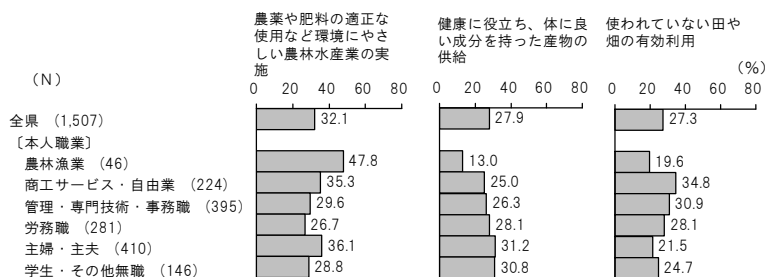
### 本人職業別

●「農薬や肥料の適正な使用など環境にやさしい農林水産業の実施」は、農林漁業で48%と、特に多くなっている。



### 住宅環境別

●「若い人が意欲を持って働ける場づくり」は山間地域で62%と、特に多くなっている。また、「使われていない田畑の有効利用」は、工業地区で39%とやや多くなっている。



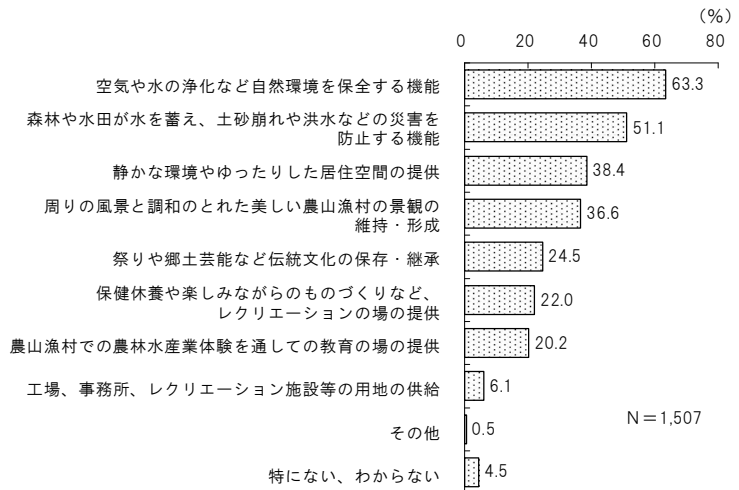
# 基本的な役割の他に 農山漁村に期待すること

「空気や水の浄化など自然環境を保全する機能」  
が63%で最も多い

Q22 [回答票 23] 農山漁村には、「食べ物  
を供給する場である」という基本的な役  
割がありますが、この他に、あなたは、  
静岡県の農山漁村に何を期待しますか。  
特に期待することをこの中から3つまで  
あげてください。(M. A.)

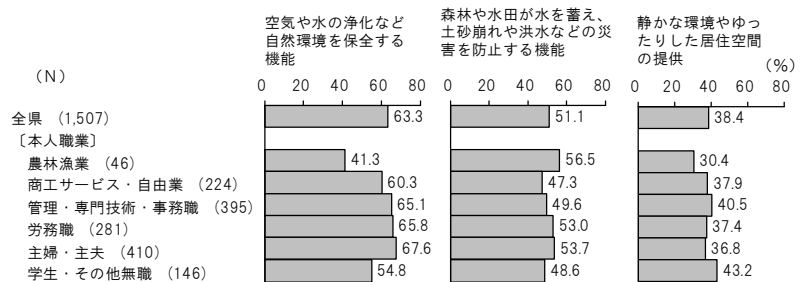
## 全 体

●「空気や水の浄化など自然環境を保全する機能」が63%で最も多く、ついで「森林や水田が水を蓄え、土砂崩れや洪水などの災害を阻止する機能」が51%で、以上が過半数となっている。以下、「静かな環境やゆったりした居住空間の提供」、「周りの風景と調和のとれた美しい農山漁村の景観の維持・形成」、「祭りや郷土芸能など伝統文化の保存・継承」の順となっている。



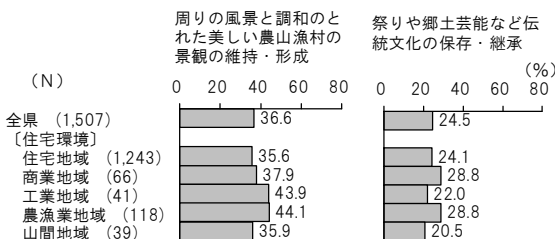
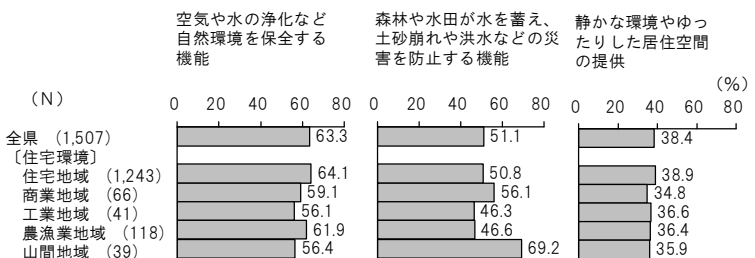
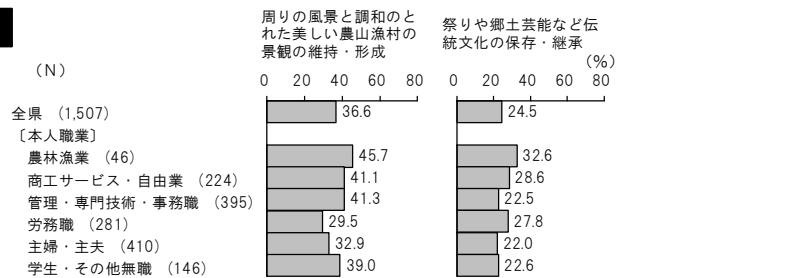
## 本人職業別

●「空気や水の浄化など自然環境を保全する機能」は農林漁業以外で最も多くなっているが、農林漁業では第1位が「森林や水田が水を蓄え、土砂崩れや洪水などの災害を阻止する機能」、第2位は「周りの風景と調和のとれた美しい農山漁村の景観の維持・形成」、第3位は「空気や水の浄化など自然環境を保全する機能」の順となっている。



## 住宅環境別

●「森林や水田が水を蓄え、土砂崩れや洪水などの災害を阻止する機能」は、山間地域で69%と多くなっている。



---

---

平成 17 年度

県 政 世 論 調 査

平成 17 年 11 月

編集・発行 静岡県企画部県民のこえ室  
静岡県葵区追手町 9 番 6 号  
電話 054(221)2235

---

---